

令和 6 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

新潟医療福祉大学

令和 7 年 7 月

新潟医療福祉大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・健康科学部 健康栄養学科（栄養教諭一種）
健康スポーツ学科（中学校教諭一種・高等学校教諭一種（保健体育））
- ・看護学部 看護学科（養護教諭一種）

大学としての全体評価

新潟医療福祉大学では全学教育理念を「優れた QOL サポーターの育成」とし、求められる 5 つの資質・能力を STEPS（S：科学知識と技術を学び続ける力、T：チームワークとリーダーシップを発揮する力、E：対象者を支援する力、P：問題を解決する力、S：自己実現を達成する力）とし、目指す資質・能力を明確にして全教育課程を編成している。教員養成課程においても社会的状況等を踏まえ 2024 年に全面的に改訂した新潟医療福祉大学教員養成理念の内容を基に更新し、3 学科共通の目指す資質・能力を整理した。この 5 つの STEPS を基に、各学科で目指す資質・能力をより詳細に設定して教育課程の編成、教育実践に取り組んでいる。設定した各 3 学科の目指す資質・能力はもちろんのこと、教育課程及び教育実践を毎年見直し、より一層教育理念が実現できるように取り組んでいる。

本学は、健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科の 3 学科において、栄養教諭、中学校・高等学校保健体育科教諭、養護教諭の免許取得プログラムを提供している。

成果として、毎年、教員免許取得者を一定程度確保し、現役の教員採用者を輩出している。また、既卒生へのサポートにも力を入れ、新潟県を中心に全国各地において教員採用者数を増やしている。2018 年度からは本学が中心となり、新潟県及び新潟市教育委員会との連絡協議会を立ち上げ、他の県内私立大学にも参加を呼びかけ、継続して行い参加大学も増えている。大学規模の関係で、本学が継続して中心となって本協議会を推進していることから新潟県内私立大学でのリーダー的存在として貢献していることを自負している。今後も、教育現場が求める人材の育成をさらに推進することと、県内私立大学が連携による各大学の教職課程の質向上の二点がより一層実現できるように努

力していきたい。

本学では、これまでの教育活動においては、毎年度点検調査を行い、成果と課題を明確にし、成果の継続と課題解決の両面で改善を重ねている。

教育職員免許法改正により、2022 年 4 月より教職課程の自己点検が義務化された。自己点検・評価の観点が明示されたことを受け、一般社団法人全国私立大学教職課程協会が『教職課程自己点検評価報告書』作成の手引き』を作成した。本学もこの手引きに沿って、教職課程の自己点検・評価を行ってきた。教職課程の自己点検・評価については、2022 年度末より本学の教職課程運営に関する組織である教職支援センターを中心に教職支援センター運営委員及び関係教職員の協力の下、報告書を作成し、全学に周知し公開している。

コロナ禍、人口減、生成 AI などの社会状況の変化に伴い、子どもの学ぶ内容や学び方も変化している。当然、学校教育及び教員養成も変革が求められている。それらの変化を踏まえた教員養成が行われているのか、今後どのような取り組みを行っていく必要があるのか、本学の教員養成課程の課題を明らかにし、その改善策を検討していきたい。

新潟医療福祉大学 教職課程長／教職支援センター長 脇野 哲郎

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	15
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	20
IV	現況基礎データ一覧	21

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：新潟医療福祉大学 健康科学部健康栄養学科

健康科学部健康スポーツ学科

看護学部看護学科

(2) 所在地：新潟県新潟市北区島見町 1398 番地

(3) 学生数及び教員数（令和 6 年 5 月 1 日現在）

学生数：健康栄養学科	教職課程	22 名	／	学科全体	168 名
健康スポーツ学科	教職課程	720 名	／	学科全体	1,067 名
看護学科	教職課程	26 名	／	学科全体	456 名
教員数：健康栄養学科		17 名			
健康スポーツ学科		46 名			
看護学科		39 名			

2 特色

新潟医療福祉大学は、保健・医療・福祉・スポーツに関わる専門職を養成する大学であり、「優れた QOL サポーターとしての教師」を教員養成理念として掲げている。健康科学部健康栄養学科は、対象者の健康づくりに貢献できる栄養教諭の養成を、健康科学部健康スポーツ学科は、健康・スポーツに関する専門的知識・技能を有する保健体育教師の養成を、看護学部看護学科は、看護の専門性を身につけた養護教諭の養成を行っている。教職志望の学生が十分な学修機会を得て希望する進路に進むことができるよう、教職支援センター及び教職支援センター運営委員会は、各学科と緊密に連携し、教員養成教育を力強く展開する。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

新潟医療福祉大学の教員養成理念は「優れた QOL サポーターとしての教師」である。
また本学の基本理念「優れた QOL サポーターを育成する大学」に即し、求められる資質・能力として 5 つの項目を挙げている。

5 つの項目

Science & Art (科学的知識と技能を学び続ける力)

豊かな教養を有し、教職および専門分野に関する高度で科学的な専門知識と技術を指導の場面において活用できる。

Teamwork & Leadership (チームワークとリーダーシップを発揮する力)

多様な児童生徒の気持ちに寄り添う豊かな感性を有し、保健・医療・福祉・スポーツ分野の複数の職種の人たちとのチームアプローチや、家庭・地域との連携・協働ができる。

Empowerment (対象者を支援する力)

児童生徒の人間形成に関する豊かな教養や人間性及びコミュニケーション能力を有し、横断的・融合的な教育実践を担うものとして、児童生徒の学びを適切に導くとともに、QOL 向上に向けた支援ができる。

Problem-solving (問題を解決する力)

教職に対する使命感と倫理観、最後まで職務を遂行しようとする責任感を有し、多様な価値観に寛容であり、児童生徒に関わる諸問題の解決に向けて対話を重ねながら取り組むことができる。

Self-actualization (自己実現を達成する力)

教職と専門分野に関する課題に広く関心をもち、主体的・継続的に学び続けることで、現代社会の情報化・グローバル化に対応し、自己の可能性を広げることができる。

上記の STEPS を基に、健康科学部健康栄養学科では、『栄養に関する高度の専門性』と『教育に関する資質』を併せ持ち、児童生徒、保護者及び地域社会の健康づくりに貢献できる栄養教諭」を養成している。そのために特に重点とする資質・能力として、S:「専門領域に関する確かな知識と教養を活かし、児童生徒、保護者、地域社会のアセスメントを行い、学校給食の管理と食に関する指導を一体的に行うことができる。」T:「多職種連携の技能を活かし、保護者、教職員、地域社会と連携・協働し、良好なコミュニケーションを図りながら食育推進の中心的な役割を主体的に果たすことができる。」E:「児童生徒、保護者および他職種から信頼される人間性と高潔な倫理観を有し、食に関する指導を通して、多様な背景を持つ児童生徒の食生活の課題を改善に導くことができる。」P:「自らの手で栄養科学的エビデンスを構築し、教職員と連携・協働する中で、エビデンスに基づいた活動を展開し、課題を解決しようとする。」S:「栄養教諭としての誇りと自覚、倫理観を有し、児童生徒の食及び栄養上の課題を理解し、その解決のために自主的・継続的に学び続ける探究心を持つとともに、国際化・情報化に対応し自らの可能性を拡げることができる。」の5つを挙げている。

健康科学部健康スポーツ学科では、「健康・スポーツに関する専門性を有し、児童生徒の人格形成と生涯にわたるQOLの向上に資することができる、豊かな教養と責任感を兼ね備えた保健体育教師」を養成している。そのために特に重点とする資質・能力として、「健康・スポーツに関する専門的知識・技能」、「専門的知識・技能を効果的に身に付けさせる指導力」、「保健体育教師としての誇りと使命感」、「フォア・ザ・チーム（連携・協働）の精神」の4つを挙げている。

上記の STEPS を基に、看護学部看護学科では、「教育職であり看護職であるという特性を生かした『看護の専門性』を身につけた養護教諭」を養成している。そのために特に

求められる資質・能力として、「学校保健・養護に関する専門知識と技術を身に付け、児童生徒・家庭・地域・学校の実態に合わせて活用できる」「児童生徒の健康課題解決を目指し、養護教諭として家庭・地域・校内外関係機関等とのチーム構築と連携・協働における中核的な役割を担うことができる」「対象を尊重し信頼関係を築くコミュニケーションを図りながら、児童生徒のセルフケア能力を育成するための適切な健康支援活動が実践できる」「養護教諭として使命感を持ち、学校保健に関する専門知識・法令・方法論を用いながら個に向き合い健康課題解決をサポートできる」「学校保健・養護に関する動向や課題に広く関心を持ち続け、変化に対応しながら主体的・意欲的に研修できる」の5つを挙げている。

〔優れた取組〕

現代の学校教育には、児童生徒の主体性や学習意欲の欠如、体力・運動能力の低下傾向、食生活や食習慣の乱れからくる健康への影響、さらにはいじめや不登校など、さまざまな問題が山積していると言われている。また、指導力の不足や、児童生徒のみならず教職員や保護者、地域住民とのコミュニケーションがうまくとれないといった教師自身の問題も指摘されている。新潟医療福祉大学が定める教員養成理念、7つの指針及び5つの項目は、養成している職種・校種・教科等の専門性に鑑みて、これらの課題に答え得る内容だといえる。

健康科学部健康栄養学科は、あらゆるフィールドで活躍する管理栄養士を育成することを中心的な目標に掲げている。その一つとしての学校教育のフィールドでは、管理栄養士の資質・能力を基盤に教諭としての資質・能力を身に付けることで学校給食の提供と食に関する指導を一体的に行うことのできる栄養教諭像を掲げる。そのため、学科の管理栄養士養成理念と整合性をもたせた内容でカリキュラムを編成し、専門職(管理栄養士)・教育職(教諭)としての知識、技術、実践力が相互に高められるよう教育内容の工夫、継続的な改善に努めている。

健康科学部健康スポーツ学科は、健康医科学、コーチング科学、スポーツマネジメント、スポーツ教育といった健康・スポーツに関連する幅広い科目を配置しており、希望する将

来像に合わせて自由に科目を選択できる。また、特徴的な実習科目および演習科目も整備している。これらのカリキュラムによって「優れた QOL サポーターとして教師」を育成することに努めている。

看護学部看護学科は、複雑化・多様化・深刻化する児童生徒の健康課題解決を目指し、看護と養護の専門性を生かした心身両面へのアプローチとそれに基づいた適切な判断ができる力の育成に重点を置いている。看護科目を基盤し教職科目（養護）では、健康相談や救急処置等の養護教諭の専門性に重点を置き、演習や事例検討、ペア・グループワークやディスカッション等を用いながら実践力の向上に努めている。

〔改善の方向性・課題〕

全学の方針に合わせて 2024 年に教員養成理念の内容を更新した。また、各学科の実情に合わせて 5 つの項目を基に、より具体的な求める資質・能力を 4 ～ 5 決めて重点としている。これは固定的なものではなく、社会や学校現場の変化、本学学生の状況に合わせて見直しをしていく。

健康科学部健康栄養学科では、学校現場の現状から、「児童生徒、保護者、地域社会の実態や課題を把握すること」「保護者、教員、地域社会と連携すること」が今後より一層重要となる。この点から栄養教諭に求められる資質・能力をより具体化し、検討していくことが求められる。

健康科学部健康スポーツ学科では、運動に親しむ児童生徒とそうでない児童生徒の二極化がより一層進んでいる現状から、運動に親しめない、運動が得意ではない児童生徒への指導に必要な専門的知識・技能の内容を精査していく必要がある。

看護学部看護学科では、学校生活への適応困難、個別の対応や特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にある現状から、「集団と個」の双方の視点を持ち児童生徒のセルフケア能力を育成する視点が特に重要となる。そのために必要な養護教諭としての資質・能力をより具体化し、検討していくことが求められる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 1 - 1 - 1 新潟医療福祉大学 全学 教員養成の理念

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

新潟医療福祉大学は、文部科学省が示す教職課程認定基準を踏まえ、教職課程科目を担当するために十分な教育研究業績を有する研究家教員及び教育行政機関や学校等において豊かな実務経験を有する実務家教員を、各学科に適正に配置している。また、教職課程を有する各学科と事務局学務部が連携し、個々の学生の状況に対応する学修支援体制を整備し、適切に教職課程を運営している。

責任ある教職指導のための組織的な取り組みとして、全学組織として教職支援センターを設置し、センター及び教職課程運営のために教職支援センター運営委員会を組織している。教育・学生支援機構における学生支援推進部に所属する教職支援センター運営委員会は、本学の教職課程及び教員養成に関わる業務を充実させるとともに、教職支援センターを円滑に運営することを目的として、三つの専門部会（養成部会、採用・研修部会、企画・研究部会）を設置し、必要な事項の調査・審議を行っている。

教職支援センター運営委員会は、委員長、副委員長、教職に関する科目担当教員から選出された教員、教職課程を有する当該学科より選出された教員、学習相談及び指導を担当する教職員、事務職員、その他委員会が必要と認めた教職員を構成員としている。必要に応じて他の委員会や事務局学務部と連携して対応する構えを取りながら、教職課程の適正な運営を期すと同時に、各学科における教職課程の位置づけに留意し、ディプロマ・ポリシー及び教員養成理念に基づく人材育成・教員養成を推進する体制を構築している。教育実習を含む学外実習や教職ボランティアなど、理論と実践の往還を必要とする実習系科目の運営にあたっては、専門部会である養成部会が中心となり、実習教育体制の連携・充実や、教育委員会等連絡先との調整を一体的に管理している。

教職課程教育を行う上での主たる施設・設備として、講義室、各学科の実習・演習室、体育館、多目的運動場、図書館をキャンパスに設置している。原則としてすべての講義室にプロジェクタやスクリーンが配備されており、教職課程の各授業等を効果的・効率的に展開できる体制が整っている。図書館には、約 140,000 冊の書籍と約 1,500 種

の保健・医療・福祉・スポーツ分野学術雑誌などが所蔵され閲覧に供されているほか、外部データベースや全国図書館の複写サービスも利用可能であり、教職課程科目の学修に十分な資料が準備されている。ラーニングコモンズや自習コーナー、インターネット接続コーナー、AV コーナーなどが備えられており、ネットワークステーションとしても利用可能である。また新潟医療福祉大学では、学生及び教職員に対し大学発行のメールアドレス及びマイクロソフト社「Office 365」のアカウントを発行し、キャンパス内には無線 LAN やコピー機も配備している。またメディア授業等で活用するために、マイクロソフト社「Teams」や e ラーニングシステム「e-Campus」を準備し、授業における情報通信技術の活用基盤を整備している。

教職支援センターには、デジタル教材を含む教職関連図書・資料 300 点余りが配架され、プリンターやコピー機も利用可能な資料閲覧・自学自習スペース、録画カメラ・モニタや大型教具が配備され、仮想教室空間でもある模擬授業スペースが完備されているほか、学生用 PC や iPad 等の ICT 関連の施設・機材も整備されている。教職支援センターの具体的な業務としては、教職に関する履修相談、教育実習に関する手続き、教員採用試験に関する相談、教員採用試験対策講座、教員採用試験模擬試験などを挙げることができる。

〔優れた取組〕

新潟医療福祉大学は、保健・医療・福祉・スポーツの総合大学であり、教員養成に特化した大学ではない。この前提を踏まえ、教職課程に係る情報を一元的に管理し、学内外の状況や要望に適切に対応するとともに、効果的・効率的な学生支援を行うために、全学組織として教職支援センター及び教職支援センター運営委員会を設置している。

教職支援センター運営委員会は、本学の教職課程及び教員養成に関わる業務を充実させ、教職志望学生に対する支援を円滑に推進するとともに、その指導及び学習環境の充実に寄与することを目的としている。様々な業務を各学科の教職課程と連携・協働しながら対応しているが、自己点検・自己評価活動については、委員会の専門部会である企画・研究部会が担当し、作業の取りまとめとともに、各学科の点検・評価活動に対し、助言及び

援助をしている。活動の性質を考慮すれば、各学科の状況を俯瞰的に捉えることができる専門部会が主導するこの体制は妥当だと考えられる。

〔改善の方向性・課題〕

教職支援センター及び教職支援センター運営委員会の役割と組織として適切に機能することが非常に重要となる。これまで、教員養成のための活動を充実させるべく様々な取り組みを増やしてきた。しかし、教員採用試験の早期化、本学学生の定員増に伴う教員免許取得学生の増加が予測されるため、一人一人の学生へのきめ細かな指導と支援の充実のためには、取り組みの精選化や重点化が必要である。

そこで、まず、養成部会、採用・研修部会、企画・研究部会の3つの部会ごとに全ての取り組みの評価基準を設定し、評価と改善の精度を高めることとした。評価基準の検討と合わせて、重点とする取り組みを共有するために各取り組みの重点度も検討した。毎年度末、この取り組みの成果を明確な評価基準をもとに評価し、重要度、重点とする取り組みを見直した。部会ごとに検討した後、委員全員で検討し、共有する。これを繰り返すことにより、学生の実態や学校教育の現状に合わせて修正・改善していく。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 1－2－1 新潟医療福祉大学教職支援センター規程
- ・ 1－2－2 新潟医療福祉大学ウェブサイト「組織図」
<https://www.nuhw.ac.jp/about/organization.html>
- ・ 1－2－3 新潟医療福祉大学ウェブサイト「A 図書館棟」
https://www.nuhw.ac.jp/about/map/map_a.html
- ・ 1－2－4 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」
https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/
- ・ 1－2－5 新潟医療福祉大学教職支援センター年報 第8号〔2023年度版〕
https://www.nuhw.ac.jp/assets/pdf/organization/teaching_career_support/newsletter_no8.pdf

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

全学及び各学科において、大学の教育理念である「優れた QOL サポーターの育成」に即したアドミッション・ポリシーが設定されている。これらのアドミッション・ポリシーは、ホームページに掲載されているだけでなく、『大学案内』『入試ガイド』『学生募集要項』等の印刷媒体及び高校教諭を対象とした入試説明会、オープンキャンパス等を通じて、優れた QOL サポーターに求められる資質・能力として公開されている。

入試においては、学科ごとに評価指標を定めて入学者選抜の公平性を担保するとともに、多様な人材確保のために複数の選抜区分を設定している。原則として、総合型選抜や学校推薦型選抜では本人の特性を生かした能力を、一般選抜や大学入学共通テスト利用選抜では高等学校卒業相当の基礎学力を測定している。また、総合型選抜や学校推薦型選抜の合格者に対しては、オンライン教材を活用した入学前教育を展開し、学修意欲を維持・向上し、大学教育に円滑に接続できるよう企図している。

健康科学部健康栄養学科は、本大学のホームページにおいて目標とする資格の一つとして栄養教諭を掲げ、免許取得要件、職務内容の概要を示しており、履修希望の有無はある程度明確になっている。入学後の学科新入生オリエンテーションにおいて教職課程（栄養教諭コース）に関する説明を行い、履修希望者を確定している。さらに、各学年においても、教職に関するオリエンテーションや個別面談を実施し、学生の履修状況や進路希望に応じた支援を行っている。

健康科学部健康スポーツ学科は、大学ホームページと連動した学科ブログ、各種 SNS (X, Instagram)、Voicy や YouTube などの媒体を通じて教員の研究成果、学生の各種活動、学科の様子などを発信している。このことで、在学生、高校生、関係者が健康スポーツ学科で行われている研究や各種活動への興味・関心を高めて、教職を目指す学生や本学科を志望する高校生の確保に努めている。教職を志望する学生に対して、教職オリエンテ

ーションを毎年開催し、各学年で必要な学修および実習の指導に当たっている。

看護学部看護学科は、毎年度行う各学年への教職オリエンテーションにおいて学科の教員養成理念や養護教諭の職務の魅力・求められる力等を示している。特に新入生に対しては、全体オリエンテーションのほかに、教職希望者に教職課程の詳細を説明し、4年間の学修の見通しを持って臨めるよう支援している。学年・個別に面談・相談体制をとり、必要な支援をしながら意欲の維持・向上に努めている。

〔優れた取組〕

健康科学部健康栄養学科では、管理栄養士の資格取得のための科目履修と並行して1年次から教職の基礎的な理解に関する科目の履修が始まる。その過程で進路が熟考され、2年次の終わりまでに免許取得のみを目指す学生と教職志望が高い学生とに分かれるが、3年次から始まる栄養教諭の専門科目では、教職を担う者としての質の担保については同等の指導を行っている。また、教員採用試験の早期化に対応するため、2年次より個別指導体制を整備し、専門科目に関する早期かつ計画的な学修支援を実施している。

健康科学部健康スポーツ学科では、学生が「優れた QOL サポーターとしての教師」を目指し、教職ポートフォリオで毎年の目標設定と振り返り、教職に関わるすべての授業科目で学んだことと課題の記録、ボランティア活動の記録などを行っている。これらを担当教員が確認してフィードバックすることで教職課程履修の進捗状況を共有している。

看護学部看護学科では、教育実習履修者の定員を10名とし、3年次に選考試験を実施している。学生自身も改めて教職に対するモチベーションを高め、進路を熟考する機会となる。また、少人数制であることを生かし、「教職ポートフォリオ」を活用した個別面談を実施し、学修状況、目標、進路希望等を把握しながら個別支援に努めている。

〔改善の方向性・課題〕

健康科学部健康栄養学科では、栄養教諭免許のほかにも取得する必要がある資格があり、実習等も多い。栄養教諭の採用は近年大変厳しく、採用がない自治体も全国にある。このため、栄養教諭以外の職業に変更する学生は学年が上がるにつれ増える傾向がある。免許を取得し、栄養教諭以外の仕事を経ってから教員採用試験を受験するという学生も減少傾向

にあり、免許を取得する学生数はここ数年多くはない。栄養教諭の魅力を感じるための工夫が必要である。これまで本学科では、現職教員の声を聴く会の開催、教職ボランティアへの参加呼びかけ、異学年交流の機会の提供などを継続的に実施してきた。今後もこれらの取組を継続するとともに、教職ポートフォリオの活用を通じて学生一人ひとりと面談を行い、履修計画や実習に対する不安を軽減する支援体制の充実を図っていく。

健康科学部健康スポーツ学科では、教員免許取得の学生数は安定しており、毎年 100 名程度いる。しかし、教員採用試験の受験を目指す学生は学年が上がるごとに減少し、教員免許取得学生の中の 2 割程度に留まっている。現職教員の声を聴く会や教職ボランティアの呼び掛け等を行っている。今後も継続し、教職の魅力に触れる工夫をしていく。教員免許取得のみの学生が多いことから、教職への意欲や教員としての適性が不十分な学生への指導は課題である。授業や各種実習で教職の魅力を感じられる工夫や求められる資質・能力が高まる工夫をさらに進める必要がある。継続して取り組み、改善してきた教職ポートフォリオの活用をさらに進める。特に学生一人一人のフィードバックの質を高めるための面談指導をより一層充実させていく。

看護学部看護学科では、養護教諭の採用数は少なく、近年はさらに厳しい状況にある。学年が上がるにつれ、養護教諭以外の職業に進路変更する学生は増える傾向にある。教員免許を取得し、養護教諭以外の仕事を経ってから教員採用試験を受験するという学生も減少傾向にあり、教員免許を取得する学生数はここ数年多くはない。養護教諭の魅力を感じるための工夫が必要である。毎年、現職教員の声を聴く会の開催や教職ボランティア・保健室ボランティアの推奨等を行っており、今後も継続する。また、既卒生の現職養護教諭や異学年間で交流する機会をより増やし、授業の履修や実習等への不安を和らげる工夫もしていく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 2 - 1 - 1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「アドミッション・ポリシー」

<https://www.nuhw.ac.jp/about/policy.html>

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

教職へのキャリア支援は、教職支援センターが中核となり、各学科教職課程、事務局キャリア開発室（就職センター、現：キャリア支援センター）と連携しながら進めている。教職へのキャリア支援として、教職に関する履修相談、人物評価試験対策指導を含む教員採用試験対策講座、教員採用試験模擬試験などを通年で行っている。これらの業務は教職支援センター運営委員会の専門部会である採用・研修部会が主管しており、実際の指導は教職支援センター非常勤講師や各学科の実務家教員が中心となり実施している。

健康科学部健康栄養学科では、教職担当教員が中心となり教職に関する履修相談を低学年から実施しており、人物試験対策指導を含む教員採用試験対策講座を、3年生を中心に後期から教員採用試験期間まで実施している。

健康科学部健康スポーツ学科は、学内講座として論作文演習、面接演習、教育課題演習、直前総合演習などを学科教員が中心となって開講し、採用試験対策はもとより、教師としての力量の形成を支援している。また、学生の表現力を高めるため、教員採用試験の出願書類の添削を行っており、多くの学生が利用している。

看護学部看護学科は、教職担当教員が低学年から進路・履修相談、専門科目の学修指導を実施している。3年生以上に教員採用試験対策指導として、専門科目を中心とした対策講座の他、人物試験対策・実技試験対策を行っている。既卒生にも対応し、支援している。

〔優れた取組〕

健康科学部健康栄養学科は、教員採用試験に特化した講座として、専門教養を中心に「食に関する指導の手引」などにあたり基礎的・基本的な知識を整理し過去問を解いたり、主に面接場面を想定した模擬授業や場面指導なども適宜加えたりしながら、総合的・実践的な演習形式の活動を通して教員採用試験に向けた力量を高めることを目的として行っている。

健康科学部健康スポーツ学科は、教職支援センター非常勤講師と学科教職担当教員が連携して指導に当たっている。現場経験が豊富な実務家教員と教職教養や専門教養に関

わる専門性の高い研究者教員が在籍しており、それぞれがペアになって学生指導に当たったり、オムニバス形式で授業や演習を担当したりしている。

看護学部看護学科は、教員採用試験対策のほか、公開模擬授業や実習報告会への低学年の参加等を行い、異学年交流を図っている。これをきっかけとして、情報共有や学修・進路相談の場を設定している。特に2、3年生で看護と教職の学習の両立への不安を挙げる学生は多く、先輩や周囲の体験を聴くことで具体的なイメージや目標をもって臨む様子がみられる。

〔改善の方向性・課題〕

健康科学部健康栄養学科は、授業及び実習等が多く、教員採用試験対策講座に参加できる時間が少ない。その結果、他学科学生との交流も少ない傾向がある。この課題に対し、本年度は、昼休みの時間帯を活用し、教職に関連するイベント（「学習ボランティア体験を語る会」など）を実施することで、学生がより参加しやすい環境づくりを図った。しかし、低学年の参加率が低かったため、今後はより積極的な参加促進策の検討が求められる。また、教員採用試験対策講座においては、授業との時間が重なるなどの理由で参加が困難な学生に対応するため、別曜日や時間帯での補講実施について各担当教員が検討を行い、教員採用試験の早期化にも対応可能な体制づくりに努めている。

健康科学部健康スポーツ学科は、「合格者の声を聴く会」や「学習ボランティア体験を語る会」等、教員としての資質・能力を向上するために意義のあるイベントと部活動の時間帯が重なる場合が多く、参加者が少ない傾向にある。これについては、昼休み等の参加しやすい時間帯に実施できるかを検討する。他学科と比べて、学習時間の確保が困難な学生が比較的多い。したがって、学科独自で教員採用試験対策講座（オンデマンド方式）を活用しながら基礎学力を向上させていきたい。また、実施回数や内容もさらに充実させられるよう検討していく。

看護学部看護学科は、授業及び実習等が多く、教員採用試験対策講座に参加する時間の確保に苦慮している。他学科学生との交流も少ない傾向がある。昼休みの時間帯に、教職に関連するイベント（「学習ボランティア体験を語る会」等）を行い、参加しやすい状況

を作っていく必要がある。そのためには、時間帯だけでなく、各イベントの内容や進め方も見直し、短時間でも交流できる場を増やすようにする。また、教員採用試験対策講座では、授業で参加できない場合、別の曜日や時間帯での補講の実施も各担当教員が検討する。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 2－2－1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」（1－2－4再掲）

https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

各学科において、教職課程コアカリキュラムに対応した、保健・医療・福祉・スポーツの専門職を養成するカリキュラムを編成している。指導法を中心とした講義系の科目において、ペア・ワークやグループ・ディスカッション、模擬授業等を盛り込んだ授業展開を取り入れ、コミュニケーション能力の育成を図っている。また教職志望度が高い学生を対象とした演習系・実技系の科目を複数配当したり、観察参加型の実習を低学年次に設定したりするなどして、教職指導の質・量の充実に努めている。さらに全学で推進する連携教育を教職課程教育にも取り入れており、4年次後期の「教職実践演習」においては、3学科連携の演習を実施している。

健康科学部健康栄養学科は、「栄養に関する高度な専門性」と「教育に関する資質」を併せ持ち、児童生徒、保護者および地域社会の健康づくりに貢献できる栄養教諭の養成を目的としたカリキュラムを編成している。3年次は講義を中心とし栄養教諭の職務に関する理解を深める科目と演習を通じて食に関する指導法を習得する科目とで構成している。

健康科学部健康スポーツ学科は、教科及び教科の指導法に関する科目、大学が独自に設定する科目においても健康・スポーツに関連する幅広い科目を開講している。教員免許を取得するための単位に加えて、学科独自の教職必修を設定することで、健康・スポーツに関する力量を幅広く身に付けることができるカリキュラムとなっている。

看護学部看護学科は、学科教員養成理念に基づき、各科目において看護と養護・学校保健の視点を備えた信頼される養護教諭の育成を目指している。教職課程科目と学科科目の関連性や系統性を踏まえ、学年ごとに段階的に学べるよう工夫している。

〔優れた取組〕

健康科学部健康栄養学科は、3年次の学びを踏まえ、4年次の教育実習（栄養教諭）で学校現場での2週間の実践に臨んでいる。最終科目の教職実践演習では、栄養教育実習に

における実践について、改めて管理栄養士視点からの振り返りを行う。各自の指導案等を支えるエビデンスを確認すると共に指導方法の在り方について協議し、専門性に関する質の向上を目指している。また、本科の卒業生で現職の栄養教諭を講師として招き、実践的な知見や最新の教育現場の状況を共有してもらうことで、学生の理解と意欲の向上を促している。

健康科学部健康スポーツ学科は、体育実技の授業科目において、学習指導要領解説保健体育編の各領域で例示されている種目を設定しており、学生の指導力の向上に努めている。さらに、大学が独自に設定する科目では、各種目の指導実習を配置しており、継続的な指導の経験を通して専門科目の指導力を高めることができるようにしている。

看護学部看護学科は、養護教諭の職務の特性から専門性を高める学びと同時に、自ら連携を構築する力を養うことを意図している。養護専門科目では、ペア・グループ学習や場面指導演習、事例検討の機会を多く設定し、学びを統合した専門性の向上を目指している。教育実習の実践場面の省察と共有を図りながら進めている。

〔改善の方向性・課題〕

健康科学部健康栄養学科では、教育実習を4年次に実施している。免許法上規定されている実習期間は1週間であるが、健康科学部健康栄養学科では現場での学びの重視から実習期間を2週間とし、連続した2週間の実習から学ぶ意義を重視している。教員採用試験の早期実施への対応策として、1年次からの教職ボランティアへの参加と4年次の教育実習に関わる事前指導の科目の集中実施について検討している。また、管理栄養士養成カリキュラムを見直し、2年次に「食生活論」を新設し、「食育」や「学校給食」、「食文化」に関する内容を取り扱うようにした。従来であれば3年次に学んでいた内容を前倒しにすることで、学生が早期の段階から栄養教諭としての資質を高めることができるよう配慮している。

健康科学部健康スポーツ学科では、教育実習を4年次に実施しているため、教員採用試験の早期実施に合わせて、教育実習の時期を見直す必要がある。しかし、学科のカリキュラム全体との調整があるため、3週間の教育実習を3年次に実施することは容易ではな

い。そこで、2024 年度入学生カリキュラムからは、2 年次に 1 週間の学校体験活動の授業を新設することで対応している。今後は、教員採用試験を受験する学生が 3 年次に教育実習を実施できるかどうか等について検討を続ける。また、ICT を活用した授業についての理解と実践力を高める必要がある。本学科の学生は比較的苦手としている学生が少なくないため、基礎的なスキル習得も含めて対策を検討する必要がある。一部の授業で ICT 活用について学習する場면을意図的に増やしている。今後も様々な授業で学習できる場面を増やしていく必要がある。

看護学部看護学科では、教員採用試験の早期実施に対応する 1 つとして、教育実習の時期の見直しが考えられる。しかし、学科のカリキュラム全体との調整があるため、3 週間の教育実習を 3 年次に実施することは容易ではない状況にある。対応策として、低学年からの教職ボランティア参加の推奨、2 年次後期からの学修会参加を実施している。今後も他学科の対応・方策を参考にしながら具体的な見直しと実現を検討している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 3 - 1 - 1 新潟医療福祉大学教職支援センター年報 第 8 号〔2023 年度版〕

基準項目 3 - 2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

実践的指導力を養成するために、低学年次からボランティア等で学校現場に触れることを推奨している。また、新潟医療福祉大学と新潟市北区との間に包括連携協定が結ばれているため、教職課程においても、北区内の小学校・中学校にて各種実習が行われたり、教職ボランティア活動が展開されたりするなど、交流の機会が多くなっている。

健康科学部健康栄養学科では、学校現場に触れる活動として 3 年次後期の給食経営管理実習を位置付けている。教職課程を履修する学生は、本実習において学校での実習となるよう実習場所を調整することで現場体験を実現させている。

健康科学部健康スポーツ学科は、大学の所在地である新潟市北区内の小学校・中学校あるいは学生の出身地の小学校・中学校での教職ボランティアを推奨し、毎年数名の学生が

実際にボランティア活動に取り組んでいる。ボランティアの内容も学習支援、部活動支援、学校行事など多岐にわたっており、実践的指導力の向上を図っている。

看護学部看護学科は、低学年からの教職ボランティア参加を勧めている。教職支援センターの担当教員より個別にマッチングしていただいていることで、学生は見通しが持て、安心して積極的にボランティアに参加している。

〔優れた取組〕

健康科学部健康栄養学科は、1年次から教職を志す学生に対し、積極的にボランティア活動への参加を促している。また、各教員の社会貢献活動や研究活動を学びの機会として提供しており、地元の小学校・中学校に出向いて「お弁当の日」の支援や、部活動に励む児童・生徒を対象とした栄養講習会などを通じて、地域との交流の機会を創出している。

健康科学部健康スポーツ学科は、学科開設以来、地域の学校でのボランティア活動を継続的に行ってきた。特に水泳、器械運動、ダンスなどの体育授業補助が中心であったが、近年では体育に限らない学習支援も多くなっている。ボランティア活動の体験によって、指導力の向上に加えて、教職の志望度を高めることにもつながっている。

看護学部看護学科は、継続的な教職ボランティアへの参加や各種実習から養護教諭の職務について具体的かつ実践的な学びを深め、教職への意欲を高める機会となっている。学級での学習支援、学校行事、保健室のボランティア等と活動場面が多岐に渡り、様々な視点から教職を理解することにつながっている。

〔改善の方向性・課題〕

健康科学部健康栄養学科では、新潟市内小学校のみで教育実習を行っている。したがって、訪問指導も全実習校に行っている。担当教員と実習校との事前の打ち合わせも詳細に行い、実習が充実するように努めている。栄養教諭は兼務のことが多いため、実習校が限られ、通勤に負担がある実習校になる場合もある。学生が通勤しやすい実習校を確保する工夫を今後も続けていく。教職ボランティアへの参加は今年度も積極的に行われ、受け入れ校からは高い評価を受けている。一方で、参加者が固定化する傾向があるため、今後はより多くの学生が参加できるような仕組みづくりや、参加を促す働きかけを検討していく。

健康科学部健康スポーツ学科では、教育実習校が遠方であっても訪問指導を行っている。各実習校への連絡、実習生の情報共有等はこれまでも丁寧に行ってきたが、遠方の実習校の一部でそれが十分できなかった事例がある。実習途中での情報共有等を今後さらに工夫していく必要がある。また、これまで母校以外での実習を積極的に進めてきた。今後も継続していく。教職ボランティアへの参加は積極的に行われ、受け入れ校からは高い評価を受けている。今後も、学生の参加人数や参加回数を増やしていけるように支援していく。学校現場では、授業はもちろん、放課後の運動遊びの指導、部活動補助等の要望も多いので、これらにも対応できるように学生を支援していきたい。

看護学部看護学科では、新潟市内小学校のみで養護実習を行っている。したがって、訪問指導も全実習校に行っている。担当教員と実習校との事前の打ち合わせも詳細に行い、養護実習が充実するように努めている。学校規模等の関係で受け入れ先が限られる年もあり、学生の通勤が困難な場合もある。学生が通勤しやすい実習校を確保する工夫を今後も続けていく。教職ボランティアへの参加は今年度も積極的に行われ、受け入れ校からは高い評価を受けている。今後も、学生の参加人数や参加回数を増やしていけるように支援していく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 3－2－1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「社会連携」

<https://www.nuhw.ac.jp/community/>

Ⅲ．総合評価（全体を通じた自己評価）

本学教職課程では、2024年度の活動をほぼ計画通り進めることができた。教員養成理念については、全学的な取り組みとの関連から、今年度、改めて整理した。大学院も含めて全体とのつながりや関連を考えるよい機会となった。教職支援センターも3つの専門部会が適切に機能し、学生への支援を進めることができた。しかし、来年度から教員採用試験の早期化がさらに進むことから、3年生の受験者が増え、その対応が十分できるかどうか不安な面もある。担当教職員の人数は増えないため、何らかの対策が必要である。今年度確かな成果があった1、2年生への教員採用試験対策講座と教職ボランティアへの参加をさらに推進すべく、学生への働きかけ等を活発に行っていく。既卒生への支援や働きかけは今年度も力を入れ、既卒生の教員採用試験合格者は着実に増えた。しかし、教員志望の一部の既卒生について状況が把握できない面もあった。メーリングリストを通じた情報提供だけでなく、実質的・効果的な支援を展開するための手だてを検討していく。

健康科学部健康栄養学科では、2024年度の活動をほぼ計画通り進めることができた。教員採用試験に挑戦する学生への指導・支援、教育実習における事前・事後指導も順調に進めることができた。前述のように教員採用試験受験者、教員免許取得者が多くない。栄養教諭の魅力を感じられる先輩との交流、異学年交流、教職ボランティアへの参加等、さらに工夫していく必要がある。それと同時に、学生一人ひとりの興味や将来像に応じた個別の働きかけも重要である。たとえば、履修相談や面談を通じて教職への関心を丁寧に把握し、早い段階から適切な支援につなげる体制を整える必要がある。今後は、こうした個別対応と全体支援の両輪で、教職志望者の育成を一層充実させていく。

健康科学部健康スポーツ学科では、2024年度の活動をほぼ計画通り進めることができた。教員採用試験に挑戦する学生は20名以上と例年と同程度の人数になり、互いに切磋琢磨する姿は例年以上に多く見られた。教育実習では、実習校との連絡や学生指導に課題がみられたため、来年度に向けた具体策を担当教員間で検討した。教職ボランテ

ィアは、積極的な参加を進めたこともあり、より多くの学生に浸透し、活動がより活性化した。今後は、さらにより多くの学生がボランティア活動に参加できるようにさらに支援していく。

看護学部看護学科では、2024年度の活動をほぼ計画通り進めることができた。前述のように教員採用試験受験者、教員免許取得者ともに多くはない。養護教諭の魅力を感じられる先輩との交流、異学年交流などもさらに工夫していく必要がある。

IV. 現況基礎データ一覧

法人名 学校法人 新潟総合学園	
大学・学部名 新潟医療福祉大学 健康科学部、看護学部	
学科・コース名（必要な場合） 健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科	
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等 令和7年5月1日現在	
① 前年度卒業生数	健康科学部健康栄養学科 38名 健康科学部健康スポーツ学科 248名 看護学部看護学科 104名 計 390名
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	健康科学部健康栄養学科 37名 健康科学部健康スポーツ学科 218名 看護学部看護学科 102名 計 357名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	健康科学部健康栄養学科 0名 健康科学部健康スポーツ学科 100名 看護学部看護学科 3名 計 103名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	健康科学部健康栄養学科 0名 健康科学部健康スポーツ学科 22名 看護学部看護学科 0名 計 22名

④のうち、正規採用者数			健康科学部健康栄養学科 0名 健康科学部健康スポーツ学科 10名 看護学部看護学科 0名 計 10名		
④のうち、臨時的任用者数			健康科学部健康栄養学科 0名 健康科学部健康スポーツ学科 12名 看護学部看護学科 0名 計 12名		
2 教員組織 令和6年5月1日現在					
	教授	准教授	講師	助教	その他 (助手)
教 員 数	健康科学部 健康栄養学科 6名 健康科学部 健康スポーツ学科 11名 看護学部看護学科 9名 計 26名	健康科学部 健康栄養学科 2名 健康科学部 健康スポーツ学科 10名 看護学部看護学科 4名 計 16名	健康科学部 健康栄養学科 3名 健康科学部 健康スポーツ学科 15名 看護学部看護学科 8名 計 26名	健康科学部 健康栄養学科 5名 健康科学部 健康スポーツ学科 10名 看護学部看護学科 11名 計 26名	健康科学部 健康栄養学科 1名 健康科学部 健康スポーツ学科 0名 看護学部看護学科 7名 計 8名
相談員・支援員など専門職員数 0名					